

台湾大地震 AMDA1次派遣隊帰国

台湾大地震の救援活動をしたアジア医師連絡協議会（AMDA、本部・岡山市）の第一次派遣チームが帰国し、三宅和久医師（37）ら四人が三十日、同市内で記者会見。「被災者は落ち着い

ているが、物資だけでなく、道路網復旧など政府レベルの大きな援助がいる」と強



台湾での救援活動の様子を話す三宅医師（左から2人目）ら

調した。

第一次チームは医師や看護婦ら八人。地震発生翌日の九月二十二日に福岡空港から現地入りし、翌日から震源地の南投県で救援活動。車のヘリコプターで移動するなどして、山間部の村など六か所で四百二十三人の治療に当たり、主に風邪や発熱、不安から来る神経症などの患者を担当した。

支援物資は直後から一般住民に行き渡り、外国の救援隊の受け入れもスムーズ。被災者の消化・呼吸器の病気が心配されたが、トイレの早期設置や薬の浸透で発症の恐れは低いという。